54. 一点に集中すること Single-Pointedn

学識のある人は、生命力のあふれている人のところに行かなければなりません。人工のものは、〈真実なるもの〉のところに行かなければなりません。

ボーディダルマがまさに禅の創造者であるように、サラハはタントラの創始者だ。
もし私が、人間性への貢献者を五人、数えあげるとしたら、サラハはそのひとりだ。
サラハはマハラシュトラのヴィダルバで生まれた。プーナにとても近い。彼は、マハパラ王の法廷の近くにいた学識のあるブラーミンの息子だった……。王は自分の娘を快くサラハに与えようとしていた。だがサラハ

シュリ・キルティがサラハに伝えた最初のことは、すべてのヴェーダを、自分の学識すべてを落とすことだった。何年もが過ぎて、サラハは偉大な瞑想者になった。ある日、彼は瞑想している間にヴィジョンを見た――[
そして彼は自分のヴィジョンの女性を市場で見つけた。彼女は矢を作っていた。彼女は矢を作る女鍛冶(かじ)師だった――低いカーストの女だ。サラハ、王の法廷に属していた学識あるブラーミンにとって、矢を作る

彼は、生き生きと、生に輝き、矢の柄(へい)を切りながら、矢を作ることに完全に飲み込まれているこの女性を、この若い女性を見た。彼は、彼女がそこにいることになにか特別なものを感じた……彼女は自分の動き
サラハは注意して見守った。矢が出来上がり、その女性は片方の目を閉じて、片方の目を開けながら、目には見えない的を狙う仕草をした……。
そしてなにかが、コミュニオンのようななにかが起こった。その瞬間に、彼女がやっていたことの霊的な意義が、サラハにわかりかけてきた。左も、右も見ることなく、彼は彼女を見た……。彼はそのことが言われるの

その女性の美、輝きは、全面的に飲み込まれることから来ていた。初めて彼は、瞑想とはなにかを理解した――特別な時間だけ坐ってマントラを繰り返すのではなく、教会や、寺院や、モスクに行くのではなく、生のな

サラハは、この矢を作る女鍛冶師の指導のもとでタントリカになった。ひとりの弟子のひとりのマスター――それは魂の恋愛だ。サラハは自分の魂の配偶者を見つけた。彼らは途方もない愛、偉大な愛のなかにいた。そ
サラハはまず、すべてのヴェーダ、教典、知識を置き去りにしなければならなかった。いま、彼は瞑想すらも置き去りにした。いまでは歌うことが彼の瞑想だった。いまでは踊ることが彼の瞑想だった。いまでは祝祭が彼の

サラハと矢を作る女鍛冶師は火葬場に移って、いっしょに住んだ。火葬場に住みながら、祝っていた！ 死しか起こらないところに住みながら、楽しく生きていた！ もしそこで楽しむことができたら、そのときには喜びがほ

遊びがサラハの存在に入ってきた。そして、遊びを通してほんとうの宗教が生まれた。
THE TANTRA VISION, Vol.1, pp.5-20

Revision #4
Created 5 October 2024 23:20:21 by ゆう
Updated 26 October 2024 02:49:34 by ゆう